

## 内山川のホタルの里づくり

内山川ホタルを守る会

コーディネーター 原田 郁 郎

豊橋市の東部を流れる豊川水系の内山川では、平成 8 年頃にはピーク時でもわずか数十匹にまで激減したゲンジボタルを平成 11 年から地域の人々で、昭和 30 年当初までたくさん飛び交っていたようにしたいと「内山川ホタルを守る会」を結成し、これまでゲンジボタルを養殖や放流などを一切せずに、河川環境の改善だけを行って平成 24 年にはピーク時で 3,000 匹を超えるまで復活させてきました。



この環境改善方法は、河川改修で固められたコンクリート壁面にビオフィルムという溶岩のついたパネルを設置する作業を行っています。この溶岩には多孔質であり、その孔に空気が入り、河川内の温度が土の堤防に近くなったり、溶岩部分にコケや小さな草が生えるようになったりしました。その結果、ゲンジボタルの餌となるカワニナも非常に増え、ゲンジボタルの発生する区間も年々増え、今では下流の朝倉川までに広がり、内山川のどの区間でも見られるようになりました。

今年、この内山川でのビオフィルムを張りつける作業を地元の多米小学校の卒業記念として実施することとなり、ビオフィルムの裏面に卒業する児童全員のメッセージを書いたものを作業当日に卒業生代表の 5 名の児童が作業を手伝いました。

作業の最後には、サザンカの苗木 3 本の植栽も行いました。

また、この作業の合間にゲンジボタルの幼虫を探していると、カワニナを食べている幼虫を見つかることができ、光って舞う姿しかみたことのない子どもたちに見せると、最初は「これ何?」「キャー」などと言っていましたが、手にとって餌を食べている様子をじっくり観察していました。

子どもたちもこの作業に参加することで、内山川に対する意識がさらに高まって、これからの環境改善の持続に繋がっていったらと思います。

